

## 他教科との協同授業という新発想

- 教科書の題材を大切にしてい興味・関心を引き出す工夫 -

東京都港区立赤坂中学校

牛島順子



知的好奇心を引き出すことがカギ

英語の授業を成功させるカギは、いかに楽しい授業を展開するかであり、いかに生徒を「また勉強したい」、「もっと調べたい」という気にさせるかにかかっていると思う。その楽しさにはゲームなどの娯乐的なものもあるが、私は生徒の知的好奇心を引き出すことで興味・関心を高める方法が何より持続性があり有効であると考えている。

昨年試行した他教科との協同授業は、まさにその意味で効果が高いと言えるので、まだ拙い実践ではあるがここで誌面を借りて紹介したい。

なぜ他教科との協同授業なのか

知的好奇心を高めるためには、題材を大切にすることが必要である。単に英語をことばとして教えるだけでは興味を失ってしまう生徒もいるが、英語をとおして学んだ題材の持つ教育的な価値を大切に、それを少しでも身近なものとしてとらえさせることで、知的好奇心を高めることができる。しかし、英語だけでは無理な場合もあるので、そんなときは他教科とのタイアップが必要になる。

三省堂のNEW CROWNは編纂の方針として、



「ことばの教育」だけでなく、「国際理解教育」や「人間教育」が三大理念として全面に出しており、題材の中身が非常に工夫されており、おもしろい。しかし、中学校の英語の学習内容としては色々な制約もあり、英語だけで深めるには無理な部分もあるようだ。そのため先生方の中には、「せっかく題材がいいのに、教科書の内容だけで終わってしまうと、物足りなさが残る」という思いをされておられる方も多いと思う。そこで、私は他教科とのTeam-Teachingによるネットワーク型指導法を思いつき、社会科との協同授業をやってみた。

こんなにある協同授業のメリット  
他教科との協同授業には、単に教師が2倍になった以上の相乗効果がある。

- ・ 2教科の横断的視点で授業づくりができ、授業の質が高まる。
- ・ 2教科の内容が加わることで中身が濃くなり、生徒の興味・関心が高まる。
- ・ 教師同士が得手・不得手を補いあえる。
- ・ お互いの指導方法に刺激を受け、効果的なアプローチが工夫できる。
- ・ 2人の目で生徒の状況を把握することができ、援助も行き届く。
- ・ グループ指導や個別指導など、授業形態の多様化が図れる。
- ・ 教師同士、教師と生徒、生徒同士などの発言の機会が増える。

もちろん、これらのメリットを生かすためには、協同授業で注意しなければならない点もいくつか考えられる。

- ・ 2教科の題材の関連性や、協同授業の必要性を十分検討した上で実施する。
- ・ 2教科の単元指導計画の流れの中で、適する位置付けを考慮する。
- ・ その日の協同授業のねらいを明確にする。
- ・ 事前の話し合いを十分に行う。
- ・ 内容を厳選し、生徒の混乱や負担が過重にならないよう配慮する。
- ・ 場面、場面での役割分担や教師間のやりとりなどを計画する。
- ・ 2教科の内容をコマ切れに出し合うのではなく、合科として考える。
- ・ 教師側の教え過ぎを控えて、生徒主体の活動に重きを置く。

### 環境問題をとおして人間教育を

2年生の第5課に登場する森林伐採による砂漠化の問題は、地球規模のテーマであり、生徒たちにとっても避けては通れないとても重要な課題である。私はこの課を、単にこの問題を知らせるだけにとどまらず、生徒たちに自分なりの考えを持たせ、さらには、環境保全にかかわる行動に一步でも踏み出せるよう高めていきたいと考えた。そのためにも、他教科との連携で重点的に取り扱い、内容を深めたいと思った。このテーマは、ほとんど全ての教科と協同が可能であるが、今回はまず社会科との連携で主題に迫ってみた。

### 事前の準備が授業を決める

事前に準備したことは、

1. 社会科に環境問題を扱っている単元があることを確かめ、年間計画を立てる際に同じ時期に扱えるよう相談した。
2. 実施時期が近づいてからは、それぞれの教科で扱う単元をお互いに勉強しあい、授業で取り上げる内容をいくつか選んだ。
3. おおまかなプランを立て、協同授業を進める上で使いやすい指導案づくりを検討した。
4. 生徒に絶滅する動物や熱帯雨林について調べさせた。

5. 砂漠化の様子を扱ったビデオを視聴し、授業で取り上げる部分を選んだ。
6. 森林伐採を引き起こしている木材やパルプ製品で身の回りにあるものを補助教材として集めた。
7. 視覚的に分かりやすいように、熱帯雨林の伐採と動物の減少、砂漠化の様子を書いたピックチャーカードを作った。
8. 授業案を決定し、生徒の活動を予想するとともに、教師の役割分担とやりとりを相談した。
9. 最後に授業で配慮すべき点を出しあい、共通理解を図った。

### 英語科・社会科協同授業\*

<主題> 熱帯雨林(環境問題)

- ┌ 英語科 Lesson 5 Rain Forest
- └ 社会科 東南アジア - - - 熱帯林の伐採  
ブラジル - - - アマゾン川流域  
西アフリカ - - - サヘルの砂漠化

\*指導案はp.4を参照

<ねらい>

- ・ 熱帯雨林で進む森林伐採の様子や、そのことが野生動物や地球環境に及ぼす影響の大きさに気付かせ、地球の将来について考えを広げさせる。
- ・ 環境保全に努めるためには、身近な所で自分たちにどういことができるかを考えさせ、自分なりの考えを発表させる。
- ・ 英語と社会の横断的な学習によって、内容をより深化・発展させ興味・関心を高めさせる。

<授業において配慮した点>

- ・ 教え過ぎをひかえ、生徒の活動を主体にする。
- ・ 生徒の興味・関心を喚起するために、
  - 教材・教具の工夫をする。
  - 学習形態の工夫をする。
  - 発問の工夫をする。
  - 発表の場を工夫する。
  - 発表をしやすくする雰囲気づくりをする。
  - 評価の工夫をする。
- ・ 異教科に対する生徒の取組みの様子を把握する。

### <主な生徒の活動>

- ・教科書の英語を参考にして熱帯雨林の森林伐採の現状を発表する。
- ・地図帳を使って熱帯雨林の分布を調べる。
- ・自由研究で調べてきた熱帯雨林に生息する絶滅寸前の鳥や動物たちのようすを発表する。
- ・自由研究の発表を聞いて質問や感想を出しあう。
- ・教科書の英語を参考にして生息する鳥や動物たちの現状を発表する。
- ・砂漠化のビデオを見て、感想を発表する。
- ・木材輸入国である日本の立場を知る。
- ・自分たちにできることは何かをグループごとで話し合い、全体に提案する。
- ・提案事項の中で英語で言えるものは、英語で発表する。

I think we should save ~ .

I think we should recycle ~ .

### <生徒から提案された内容>

- ・紙の無駄使いを止めよう。
  - 学校の印刷物の裏も計算などに利用しよう。
  - トイレットペーパー、ティッシュなどを少なめに使おう。
  - 紙コップや紙の皿は使わないようにしよう。
- ・紙のリサイクルを進んでやろう。
- ・割り箸などを使い過ぎないようにしよう。
- ・木材を大量に輸入しないで済むように古い家も大事に使おう。
- ・砂漠化したところに植林ができるよう募金しよう。
- ・砂漠に適する植林の技術を研究しよう。
- ・紙や木材だけではなく、毎日の生活でぜいたくや無駄は控えよう。

生徒が一番興味・関心を示した場面は、自由研究の発表やそれぞれのグループからの提案がなされた時であった\*。また、社会科の教師が慣れない英語を苦勞して使っている場面や、英語科の教師が地図帳やグラフを読みとっている

場面では、教師も生徒と一緒に勉強していると感動し、おおいに喜んでいた。

\*生徒および研究協議会の感想についてはp.4を参照

### その他にもいろいろな可能性が

今回の環境問題以外にも、この教科書には他教科との連携の有効な箇所が多々あり、少しずつ実践を進めているが、いずれも想像以上に好評である。

### <例>

#### ・社会科との連携

中国の祭り、時差、アメリカの学校、万里の長城、オーストラリア、新大陸発見、アイヌ、イギリス、モンゴル、ケニア、カナダ、韓国、広島、キング牧師、ウェールズ など

#### ・理科との連携

イカの生態、絶滅した鳥ドードーなど

最後に 英語教師が授業改革のパイオニアに新しい試みは一步踏み出すまでが大変である。しかし、この授業は教師間の人間関係さえうまくいっていれば、だれもが気軽に取り組み、なおかつ成果をあげることができる。2002年から新たに登場する「総合的な学習」への足がかりにもなるので、ぜひ英語科の先生が学校内でのパイオニアとなって進めていただきたいと思う。

思い起こせば、ALTとのTeam-Teachingが導入された時、さらにはコミュニケーションアプローチなるものが推奨され、今までと180度変わった指導法が紹介された時、英語教師受難の時といわれた。しかし、それらの局面を乗り切って幾多の成果を挙げてこられた先生方である。そのフレキシビリティがあれば、この新しい試みも不可能なことではないと私は信じる。



	時間	英語科の指導	生徒の活動	社会科の指導
導入	8	あいさつ ねらい 熱帯雨林の破壊状況(P.28)	・あいさつ  ・英文を読み、英語で理解する ・熱帯雨林の現状を発表する	あいさつ ねらい
	5		・地理を確認する ・生息する動物たちについて自由研究のレポートを発表する	熱帯雨林とは その分布(地図) 熱帯雨林の役割
展開	8	生息する動物に今何が なぜ森林伐採が その進み方と影響(p.29)	・英文を読み、英語で理解する ・わかったことを発表する	森林伐採、砂漠化 (ビデオ) 森林伐採と日本の関わり
	8 11	何をすべきかの問い	・ビデオの感想を発表する  ・自分たちにできることは何か (グループでの話し合い)	
まとめ	5	意見発表の方法	・英語で言えることは英語で発表 I think we should ~.	
	5	まとめ	・自己評価カード	まとめ

自己評価カード\* 今日の授業はどうでしたか? 2年 組氏名( )

	とても	少し	あまり	全然
1. 環境問題について .....	15人	13人	3人	1人
2. 環境問題について理解できましたか .....	15人	14人	2人	1人
3. 環境問題について真剣に考えましたか .....	13人	13人	5人	1人
4. 手を挙げて発表ができましたか .....	10人	12人	9人	1人
5. 自分の考えを発表できましたか .....	8人	14人	9人	1人
6. 発表は大きい声でわかりやすく言えましたか .....	10人	14人	7人	1人
7. 友達の発表をしっかりと聞きましたか .....	24人	7人	0人	1人
8. 今日の授業でがんばったこと:				
9. 次の授業でがんばろうと思うこと:				

\*「自己評価カード」は結果を掲載しています

### 生徒の感想より

- ・新しい試みで結構おもしろかった。(多数)
- ・これはイイ。続けてほしいです。(多数)
- ・とっても新鮮でいつもよりおもしろかった。
- ・二人の先生の息が結構合っていて良かった。
- ・英語と社会、けっこうマッチしていたと思う。
- ・特にいつもと変わらない。でも英語だけじゃ足りない所を社会も加わって良かった。
- ・私には題が難しすぎたけど、英語・社会のドッキングはとても良かった。
- ・やってみたらとても良かった。内容も現在、地球全体を通してとても大切な事だし、ぜひまたやってほしい。

### 研究協議会より

- ・なかなかおもしろい試みである。
- ・工夫してみる価値がある。
- ・中身の濃い授業だった。
- ・二人の交互のアプローチがあり飽きずに楽しめた。
- ・どの教科も異教科間 Team-Teaching の必要性を感じていたはずなので参考になった。
- ・それぞれの教科で生徒の活躍の場面があり、色々な良さが見えた。